

## 適応外使用医薬品の使用申請書

責任者 麻酔科 紺崎 友晴

薬剤	イントラリポス輸液20%	規格	20% 100mL	<input type="checkbox"/>	院内調剤が必要									
対象	局所麻酔薬中毒と診断されたもしくは疑われた患者	<input type="checkbox"/>	特定の患者のみ	ID	氏名									
申請理由	<p>硬膜外麻酔や末梢神経ブロックなど多量の局所麻酔薬を使用した時や誤って局所麻酔薬を血管内注入した時は、局所麻酔薬の血中濃度が上昇して中枢神経系毒性として興奮、痙攣、意識消失、心血管毒性として不整脈、伝導障害、低血圧、心停止が起きることがある。脂肪乳剤は血液中の局所麻酔薬と結合することで遊離局所麻酔薬濃度を下げ、脳や心臓組織内の濃度を低下させる。</p> <p>局所麻酔薬中毒への対応プラクティカルガイドでは、局所麻酔薬の投与後に意識消失や徐脈、低血圧等を伴い、生命の危機にある場合に対する具体的な使用法まで完成されている。</p> <p>AACTのLipid Workgroupはブピバカインによる心停止、致死的中毒に対して静注用脂肪乳剤使用を推奨し、局所麻酔薬中毒に対しては弱い推奨をしている。</p> <p>今日の治療薬に適応外ではあるものの中毒治療薬として収載されている。</p>													
問題点と対策	<p>呼吸、循環の監視の下で投与する。</p> <p>局所麻酔薬中毒の治療目的で用いた場合、ほとんどの症例で上述の最大投与量以下で副作用なく効果が認められている。</p> <p>投与速度が速く、投与量が多いため、循環系への負荷となり、脂肪塞栓症が起きることがある。網内系へ取り込まれると効果が減弱するため投与速度を保つ。最大投与量12mL/kgは厳守する。なお動物実験から計算されたヒトにおける脂肪乳剤の致死量は67mL/kgである。高カロリー輸液やハイドロキシエチルスターチなどと混和すると脂肪滴が大きくなるため、他の薬剤と混合しない。胸部レントゲン写真を撮影する。トリグリセリド、アミラーゼ、リパーゼの測定を行う。</p>													
根拠となる文献	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">局所麻酔薬中毒への対応プラクティカルガイド</td> <td style="width: 30%; padding: 5px;">日本麻酔科学会</td> <td style="width: 20%; padding: 5px;">2017</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">Evidence based recommendations on the use of intravenous lipid emulsion therapy in poisoning</td> <td style="padding: 5px;">American Academy of Clinical Toxicology</td> <td style="padding: 5px;">2016</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">今日の治療薬</td> <td style="padding: 5px;">南江堂</td> <td style="padding: 5px;">2022</td> </tr> </table>					局所麻酔薬中毒への対応プラクティカルガイド	日本麻酔科学会	2017	Evidence based recommendations on the use of intravenous lipid emulsion therapy in poisoning	American Academy of Clinical Toxicology	2016	今日の治療薬	南江堂	2022
局所麻酔薬中毒への対応プラクティカルガイド	日本麻酔科学会	2017												
Evidence based recommendations on the use of intravenous lipid emulsion therapy in poisoning	American Academy of Clinical Toxicology	2016												
今日の治療薬	南江堂	2022												